

【回答】

御依頼をいただきました質問状について、以下のとおりご回答いたします。

新型コロナウイルス感染症により、文化芸術関係は早くから公演等の自粛を余儀なくされるなど、大きな影響を受けています。数多くの文化芸術関連イベントが中止・延期されたことによって、これまで文化芸術が多くの人々の心を潤し、勇気や希望を与えてくれる、かけがえのないものであると痛感いたしました。

公明党としては、昨年6月より党文化芸術振興会議を計14回開催し、文化芸術関係者の方々から現場の声を直接伺い、その声を政府に届け、予算の確保や利用しやすい支援制度になるよう取り組んできました。

コロナに対応した3度にわたる補正予算において、政府全体で確保した文化芸術支援関連の予算は、文化庁の今年度当初予算（1067億円）を超える規模となりました。その中で、例えば第2次補正予算では「文化芸術活動の継続支援事業」を盛り込み、フリーランスの個人やライブハウス、ミニシアター等も含め、文化芸術関係者へ最大150万円を支援してきました。（今月12日までに70,417件が交付決定）

また、コロナの影響で公演を延期・中止した事業者を支援するためのJ-LODlive補助金の概算払いについては、現場からの強い声を受けて、概算払いが可能となります。さらに、本年1月からの緊急事態宣言に対応するため、外出自粛等の影響を受けた中小法人等への支援策の一つである使途に制限がない一時支援金（法人60万円以内、個人事業者等30万円以内）の支援は、要件を満たすイベント事業者に対しても支払われます。

引き続き、現場の皆さまの声を伺い、厳しい状況にある文化芸術活動を担う皆さまの事業が継続できるよう、支援を推進するとともに、政府の支援策がより利用しやすくなるよう運営改善に取り組んでまいります。